

ポスト・コロナ社会を考える

新型コロナウイルスの感染症は、次々と登場する新たな変異株により、収まったと思うと再び拡大することが繰り返され、いつになったら収まるのか予断を許さない状況になっています。その中で国際社会も、日本政府も相変わらず、その解決策としてワクチンへの依存度を強めています。接種の必要がない子どもたちまで接種の対象とするなど、際限のない接種漬けともいえる状況が起きています。

そんな中、ファイザー社など医薬品多国籍企業は、史上空前の利益を上げ、さらに新たなワクチンや医薬品の開発に邁進しています。またワクチンや医薬品開発の中心が、すっかり DNA や RNA といった遺伝物質の利用へと移行し、遺伝子医療が本格化しています。さらには HPV ワクチンの積極的勧奨の再開、新たな分野での開発など、ワクチン依存社会ともいえる状況が起きています。

これまでの新型コロナ感染症への対策は、はたして問題なかったのか。ワクチンへの依存は正しかったのか。これからのワクチンや医薬品開発は問題ないのか。それらを検証します。

記

講師；天笠啓裕さん 市民バイオテクノロジー情報室代表。

日時：2022 年 6 月 29 日（水） 14 時～16 時 00 分 開場 13 時 30 分

場所：東京ボランティア・市民活動センター 会議室

〒162-0823 東京都新宿区神楽河岸 1-1 飯田橋セントラルプラザ 10 階

参加費 500 円

先着 30 名 事前申し込みなし

主催：people21 <https://people21she.wixsite.com/people>

連絡先 神野玲子 E-mail： jreikochan@yahoo.co.jp

以上